

2013 年度キャンパス・アジア国内研修旅行報告

キャンパス・アジア学生を対象に希望者を募り、2月18日から20日までの3日間、広島と岡山への研修旅行を実施した。参加者は日本人学生4名、中国人学生4名、韓国人学生5名の計13名であった。

2月18日は広島の平和記念公園、厳島神社、19日は岡山大学、岡山城、20日は倉敷を訪れた。この研修旅行の目的は、一つには、平和について身をもって考えること、二つ目は他大学の学生との交流の機会を持つこと、三つ目は留学生と日本人学生間でコミュニケーションを図ることであった。

広島の平和記念公園内の平和記念資料館では、ボランティアガイドの英語による各展示の詳細な説明を受けた。学生たちは原子爆弾で破壊される前と後の広島の街の様子を比べて、その被害の大きさに言葉を失っていたようだったが、さらに、原爆の爆風や熱線、放射線によって実際に被害を受けた様子を展示しているエリアではその悲惨さに目を逸らす姿も見られた。その後、平和公園内の散策では、原爆ドーム、韓国人原爆犠牲者慰霊碑、被爆したアオギリなどを見て回り、韓国人留学生は思わぬところで自分との繋がりを見つけ、衝撃を受けていた。

この研修旅行においては岡山大学を訪問したが、同大学は名古屋大学と同様、キャンパス・アジア事業を行っており、中国・韓国からの留学生を受け入れている。そのため、学生同士の交流の中で情報交換を行ったり、互いに刺激を受けたりすること、さらには協力関係を構築することを意図して、岡山大学との交流会を企画した。この交流会においては、名古屋大学の学生が、原爆投下についての事前学習と前日に見学したことをもとにグループに分かれて報告を行い、その上で、両大学の学生で平和に関するディスカッションを行った。これらは、日本語、英語、中国語、韓国語の多言語によってなされたため、若干の戸惑いがあったようだが、交流会の最後には各グループで話し合ったことを上手くまとめて報告していた。

①広島の平和記念公園内の平和記念資料館での見学



②岡山大学でのキャンパス・アジア学生合同交流会

